



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話(鉄電) 千葉 2935・2936番

(公) 043(222)7207番

95.10.31 No. 4286.

全支部の先頭を切って (10月26日)

第19回勝浦支部大会開催!

スト体勢を確立し

反撃に打って出るぞ!

運転区廃止攻撃 粉碎に向けて!

十月二十六日、全支部の先頭を

きつて、勝浦支部第十九回定期大会が開催された。会場には、四〇名に近い組合員が結集し、熱心な討議の上で、勝浦運転区廃止攻撃に対しストライキに決起する方針が確認された。

冒頭あいさつにたった鶴岡支部長は、「勝浦支部は、この一年間、水野さんの選挙闘争、勝浦運転区存続の署名運動、中村さんの選挙闘争と、これまでにない全組合員あげた闘いをやりぬいてきた。支部組合員の協力にほんとうに感謝したい。いよいよ、勝浦運転区廃止攻撃との

(岩瀬新支部長)



闘いが重要な段階を迎えている。当局は、一方的に強行しようという動きにあるが、最後まで、全力で闘いをやりぬきたい」と提起。

水野・中村両議員が来賓の挨拶

続いて、来賓として、勝浦市議水野さん、御宿町議中村さん、いすみ支部田中支部長、本部長野委員長があいさつにたち、「私も国鉄就職以来、ずっと勝浦運転区で働いてきた。動労千葉潰しのためにのみ勝浦運転区を廃止しようとする攻撃は絶対に許すことはできない。労働者としての生きざまをかけて、皆さんとともに闘いたい」(水野)「選挙のご支援に心より感謝する。この勝浦支部の団結を潰すような攻撃を許すことはできない」(中村)「いすみ支部は、勝浦支部とともに先頭で闘う」(田中)「JR体制が揺ぎはじめている。敵の側が分裂し、JR東日本・革マルの結託体制が解体の対象となっている。勝浦運転区廃止攻撃は、革マル結託体制の最後なあがきだ。本部としては、国鉄分割・民営化攻撃

以来の決着をかけて闘いに決起したい。」(中野)とそれぞれが熱を込めて訴えた。

いよいよ、闘いのときは来た!

その後、執行部から総括・方針が一括して提案され、討議が行なわれた。参加者からは、「分割・民営化のとき、動労千葉はストライキにたち上がって確かに血を流した。しかし、闘えなかった国労はもっと多くの血を流して二〇万の組織が三万になっってしまった。ここで立ち上がらなかつたら後で必ずしつべ返しがくる」「何年か駅に出されていて実感したが、闘ったという自負があるから駅でも胸をはってがまんができた。駅に出されている人はまた再配転されている。残っている我々こそが闘わなければならないと思う」「昨年測量が行なわれた時点、今年着工された時点など、早いうちからストライキの方針をだ

してほしかった」等々の意見が出され、提案された方針が満場一致で採択された。

最後に、新執行部が選出され、大会は、大成功のうちに、十二月一日に向けた闘いの体制が確立された。新執行部を代表してあいさつにたった岩瀬新支部長は、「勝浦支部廃止攻撃粉碎に向けて、スト体制を確立し、全力で闘いぬく決意です。全組合員のご協力をお願いします」と決意表明。力づくよく団結ガンパローの音頭をとった。

●九五年度新役員

支部長	岩瀬 孝一	副支部長	岩瀬 義一	書記長	磯野 清一	執行委員	鈴木 忍
	加田 嘉郎		井上 哲郎		吉野 信弘		吉野 信弘
	高梨 一夫		吉野 一夫		吉野 一夫		吉野 一夫

大失業時代を撃つ 11・5全国労働者総決起集会

(集会要綱)

連帯・激励

岩井 章 氏 (元総評事務局長)

佐藤芳夫 氏 (元中立労連議長)

被災支援連からのアピール

中島 誠 氏 (文芸評論家)

特別報告

沖縄現地からの闘いの報告

正念場を迎えた国鉄闘争

被災地神戸からの闘いの報告

阪神被災地雇用と生活要求者組合

基調報告

中野 洋 (動労千葉委員長)

決意表明

全国の闘う労組・労働者から

日時 11月5日(日) 正午

会場 日比谷野外音楽堂

主催 9・18実行委員会

協賛 国鉄千葉動力車労働組合